



瀬田の丘

創刊 1973 年

編集・発行 / カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

年間第十八主日A年（2026年8月2日）

第一朗読：イザヤ書 55 章 1－3 節

第二朗読：ローマの信徒への手紙 8 章 35、37－39 節

福音朗読：マタイによる福音書 14 章 13－21 節

三つの朗読から

三つの朗読には象徴、イメージの数々が散りばめられています。第一朗読は「さあ、渇いている者は誰でも、水のある所に来るがよい」（1 節 フランシスコ会訳）で始まります。ユダヤ教の伝統では、ここでの「水」はトラー、神の言葉の象徴を意味していると伝えられています。そんな背景に基づいて今日の朗読箇所を読んでみると「わたしに聞き従えば良いものを食べることができる」（2 節）、「耳を傾けて聞き」（3 節）と、言葉、しかも神の言葉に関するイメージが浮き上がってくるでしょう。

第二朗読でも象徴が語られます。「だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができましょう。……神の愛から、わたしたちを引き離すことはできません」（35、39 節）。物理的に何かから引き離されることは人生の中で滅多にありません。それでも、精神的に、あるいはこころのうえで引き離された体験は数多くあるものです。愛してくださる方から引き離されるのは辛いです。しかし、どんな状況に陥ったとしても、先にわたしたちを愛してくださったイエスさまの愛の結びつきから解かれることは決してありません。

福音朗読ではパン、そして満腹という象徴的な表現が登場します。イエスさまがパンを取り、「天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて」（19 節）くださると、パンが「すべての人が食べて満腹」するいのちの食べ物へと変わるのです。パンとは神さまのことば、そして神さまのことばが人となられたイエスさまご自身（ヨハ 1 章 14 節参照）。このパンをいただいて、わたしたちはイエスさまの愛に強く結ばれるのです。

ところで、『マタイによる福音書』14 章の冒頭では洗礼者ヨハネの死がイエスさまに伝えられます。ヨハネのお弟子さんたちはイエスさまに自分たちの先生であったヨハネの死を報告しました。これを聞いて、イエスさまは一人で人里離れた所へと退いていきます（13 節）。その後の出来事が今日の朗読箇所です。

全体は三つの段落に分けられます。

13－14 節：出来事の背景の説明

15－18 節：イエスさまとお弟子さんたちとの対話

19－21 節：イエスさまがなさった奇跡

『マルコによる福音書』にも同じお話があります（並行記事 6章30－34節）。しかし、マルコでは派遣された使徒たちが帰ってきて、彼らを心配してイエスさまは「さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行って、しばらく休むがよい」とおっしゃいます（31節）。しかし、マタイではお弟子さんたちの姿がありません。14章15節になってはお弟子さんたちが登場します。同じお話でありながらも二つの福音書では伝えたい内容が異なるようです。

13節に「退かれた」とあります。原文を分析してみると三人称単数形です。主語はイエスさまです。お弟子さんたちは含まれていません。つまり、『マタイによる福音書』でのこのお話はイエスさまに焦点を置いているようです。

そして、15、16節に「行くでしょう、行かせることはない」に注目してください。ギリシア語ではアペルコマイという動詞が使われています。前置詞のアポと動詞のエルコマイから成り立つ合成語です。アポは「～から」の意味で、エルコマイは「来る」の意味ですが、合成されて「何かがある場所から出て、他の場所へと移動する」の意味となります。出て行くことに重きをおくと「…から出て行く」となりますし、移動する目標に注目すると「…へと立ち去る」という翻訳となると思います。15、16節にそれぞれ登場することばを直訳すると15節は「村に出て行って」となり、16節では「出て行く必要はない」となります。村へと立ち去り、食物を求めればよいと考えるお弟子さんたちと、出て行く必要はないと考えているイエスさまの考えの違いが明確になっています。しかし、注目したいのは群衆に食物が必要であることはお弟子さんたちもイエスさまも同じ考えのようです。

そこで17、18節の「ここには」と「ここに」という小さな言葉が生きてきます。食糧が不足していることはお互いに理解合っていますが、食糧を得る方法がイエスさまとお弟子さんたちとは違っています。「ここ」はギリシア語でホーデですが、『マルコによる福音書』の並行記事にはこのことばは登場しません。

お弟子さんたちは、群衆のために食糧を得るためには、彼らを町に戻らせ、自分たちで買い求めることをしなければならないと考えています。「そうすれば、自分で村へ食べ物を買いに行くでしょう」（15節）。しかし、イエスさまは違っています。「パン五つと魚二匹」しかないという、限られた食物しかない「ここ」（ホーデ）こそが、食べ物を与える場所だと考えています。同じ「ここ」でも、お弟子さんたちの考えている内容とイエスさまがお考えになっている内容とが違います。

18節を直訳すると「それらをわたしのもとに、ここに持ってきてなさい」となります。つまり、イエスさまがお考えになる「ここ」とは「わたし」がいる場所なのです。

お知らせ

8月15日 午前10時半より 聖母被昇天のミサ